

令和3年度第2回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和4年1月27日（木） 午後1時30分～3時20分

2 会 場 小田原市郷土文化館分館松永記念館 老樺荘

3 出席者

（1）郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、鳥居副委員長、田尾委員、高橋委員、田鴎委員、山下委員、西村委員

（2）市事務局側

鈴木文化部長、尾沢文化部副部長、湯浅生涯学習課長、鈴木郷土文化館係長、

田中主任、中村主任、吉野主事

4 会議の概要

課長の司会で始まり、部長の挨拶の後、司会進行を一寸木委員長に移行した。その後議事に移り次第に沿って審議を行った。

（1）議題 報告事項(1)「令和3年度(11月から3月) 郷土文化館事業について」

（資料1～6）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和3年度 郷土文化館入場者数」（資料1-1・1-2）について

入場者が多い時期、月毎の傾向、室内の密度について質問があり、平常時における、郷土文化館では市内でのイベントや城内での桜が見られる時期、4・5月が来館者数が多い月になる。また松永記念館については、紅葉が見られる時期（11・12月）が来館者数が多い傾向がある。コロナ対策として入場者制限をしていた時期は、館内的人数が40人を超えないように入場者制限をかけていた。学校単位で見学した時は、超えることはあったが、一般の入場者の場合は、密になることはなかったと説明した。

② 「令和3年度 学校利用状況」（資料1-3）について

小学校の利用3件について「3 見学等の校外学習対応を行った学校」の記載には「なし」と記載されている意味について質問があったが、学芸員が館内解説を行わず自由見学とした場合であると説明した。

③ 「令和3年度(11月～3月) 展示事業 実施概要」（資料2-1）について

文化人資料室は、当初の展示内容と現在の展示内容とが乖離しているので、名称を変更することを検討してはどうか、また、歴史資料室の展示概要は、平安時代からと書いてあるが、実際は千代廃寺の瓦片を展示しているので、古代ではなく奈良時代からと書くべきではないかとの意見があり、文化人資料室の名称について、文化人の資料が図書館に移管されたことで現在は近代の資料を展示しており、変更することを検討する。また歴史資料室の展示画概要についても、内容に沿うように修正を行うと回答した。

また、文化人資料室という名称が残っているのは、気になるのでテーマを変えて、市民が参加できるような展示等、市民に寄り添えるような展示室とすることを検討した方が良いとのアドバイスがあった。

④ 「令和3年度(11月～3月) 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料4-1・4-3)について

自然災害伝承碑について。国土地理院から委託された事業なのかとの質問があり、委託されただけでなく、国土地理院からの呼びかけに対応し今回の6件については、国土地理院がすでに把握している石碑であったのすぐ対応したが、市内に残り15件の自然災害伝承碑が確認されているので、調査が終了次第、申請を行う予定であると回答した。

また来年度4月には、コロナ禍で活動を中止していた石造物調査会も再開する予定であり、新しい石碑を発見する可能性があることを説明した。

これに対し、埼玉県の博物館でも災害伝承碑をテーマにした展示が予定されると聞いており、自然災害伝承碑については、啓発活動になるので、郷土文化館でも展示を行ってほしいとの意見があった。

近藤弘明展の図録について。刊行が遅れている理由と販売方法について質問があり、仕様や関係者との調整によって遅れており、郷土文化館や松永記念館で販売することを説明した。

また、刊行された際は、プレスリリースはすることは検討しているかとの問い合わせに、検討していると回答した。

⑤ 「令和3年度(11月～3月)博物館構想推進事業における取組概要」(資料6)について

収蔵庫整備に関する基礎調査についてどのような調査を実施しているのかとの質問があり、現状で収蔵している資料を収めることができる土地の検討をしており、用途や防災的な面を考慮し、必要経費や地権者との調整を進めていくと回答した。

(2) 議題 報告事項(2)「新型コロナウイルス感染予防対策について」(資料7)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。委員からの質問等はなかった。

(3) 議題 協議事項(1)「令和4年度 郷土文化館事業について」(資料8～10)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和4年度 展示事業 実施計画(案)」(資料8-1)について

民俗資料室の展示について、小学校の利用があるが、何年生かとの質問があり、

昔の暮らしを授業で学習する3年生であると回答したところ、展示内容の一部の展示のリニューアルを検討すべき、例えば、当時の生業や小田原の暮らし가もっとわかるような展示内容にしてはどうかとの意見があった。また、展示キャプションを例にとると、一般名称をキャプションで紹介するよりも地域固有の名称を紹介する等が良い、学習指導要領も変化してきているので、内容に則して展示内容を変えていく必要がある。学校連携も適宜することで、学年を問わず定期的に来館してもらえるような工夫が必要でないかとのアドバイスがあった。

さらにコロナ禍で校外授業が以前より減少してはいるが、市内に見学できるような素晴らしい施設があるなどの情報が共有できれば見学の行程に組み入れることが可能である。また、小田原の歴史に興味をもってもらえるような展示があればぜひ情報共有をしてほしい。小田原市学校教育振興教育計画にも「郷土愛を育てる」という文言が明記されているので、校長会でも働きかけをしていきたいとの意見があった。

来館される人は、なにかしらの意識を持った人が多いが、入場者数を増加させるには、なにげなく見えてしまう場所で展示をすることも検討が必要であり、その一例として、三の丸ホールの回廊で展示するなどがあるのでないかとの意見があった。

事務局より、ハルネ小田原のギャラリーで、「まるごと博物館」の展示を行った実績があり、また、生涯学習センターけやきの展示スペースやダイナシティウエストなどでアウトリーチの展示を検討していると回答した。

相模原市博でボランティアが、小学生のための展示を実施しているので参考にするべきとの意見があり、検討すると回答した。

② 「令和4年度博物館構想推進事業における取組計画（案）」（資料11）について

講演会について「博物館建設の機運を醸成するための講演会を開催する」という書き方であると、事務局側の博物館建設に対する意識が低下しているのではないかという印象をもってしまう。令和4年度の計画には令和3年度の計画を受けて、具体的な案が資料として提示されるべきとの意見があったが、用地問題、財源確保等を含め具体的な展開が現状では難しく今後の検討課題とする。また、推進する立場に変更はなく限られた人数で、業務を行っているが必要な予確保していきたいと回答した。

デジタルミュージアムについて、博物館建設とデジタルミュージアムは切り離して取り組んでいく必要があるとの意見があり、現市長が就任してから、デジタル化を推進する機運が高まっている。博物館の問題とデジタルミュージアムの推進を合わせた方が効果的と思われることから、戦略的に合わせていると回答した。

（4）議題 協議事項（2）「令和4年度 郷土文化館予算について」（資料11）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告したが「板橋の文化遺産活用事業」については他の課の管轄になるのかとの質問があり、文化政策課になると回答した。

以上をもって協議を終了した。その後、学芸員の案内により松永記念館で開催中の受贈記念特別展「近藤弘明-幻華-」と令和元年度に移築復元が完了した無住庵及び今年度6月に整備が完了した庭園の見学を行った。